

- 1 対象学年 第2学年
- 2 単元名 「聞く・話す」 - さまざまな活動から論理的に話すことを身につける -

3 単元設定の理由

今回の学習指導要領の改訂で、国語科においては、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現できる能力などが重視されている。さらに、「話すこと・聞くこと」の領域が新たに設定されたことから、音声言語の指導が重要であると思われる。

このような状況にありながら、私の国語の授業においては、文章の詳細な読解に時間を費やすことが多かった。こうした反省点から、生徒の論理的に話す力を高める指導が必要であると考えた。

そこで、自分の意見を発表する場の設定や振り返り活動の導入などにより、論理的に話すために必要な相手意識や場面意識などをもち、論理的に話す力を高めることができるのではないかと考え、この単元を設定した。

4 単元の目標

自分の意見を明確にし、その根拠や理由も述べる。

話の構成を工夫する。

相手や場面に応じて言葉の選択、声の大きさなどを工夫する。

自分の話を振り返る。

5 授業の工夫

論理的に話すために必要な意識をもたせる。

ア 相手意識・場面意識・方法意識をもたせるために

相手意識、場面意識、方法意識をもたせるためには、話すという活動が、どのような場面で、だれとの間で行われるのかということについて、意識させることが大切である。その意識のもとで、どのような話し方をするのが最も効果的であるのかについて指導すること。また、生徒自ら十分に考えさせる必要がある。

そのため授業では、発表会という場を一

人一人に意識させ、体験させる。これにより、相手や場면을より意識させ、どのような話し方がその時にふさわしいのかについて自ら考えるようにさせる。

イ 評価意識をもたせるために

評価意識をもたせるためには、自分の話す内容が聞き手にどのように受け取られているのかを知り、自分で話す内容を点検することが大切である。また、他者の話す内容に関心をもたせることで、自分の話し方に関心を向けさせる必要がある。

そのため授業では、発表時の話しぶりを録音したものから、自分の発表内容を振り返らせる。また、聞き手からの評価カードを活用させたり、他者の発表の良さに気づかせたりする。これらのことをふまえさせ、最終の発表原稿を作成させる。

論理的に話す力（取材能力、構成能力、伝達能力）を高める。

ア 取材能力を高めるために

情報を収集、整理する力を高めるためには、話そうとするテーマについては、広い範囲から情報を収集し、客観性、妥当性のある情報を選ぶ必要がある。

そのため授業では、まず自分の意見を明確にさせる。そして理由や根拠についても、さまざまな角度から情報を収集させ、分かりやすいものを選択させる。意見を支える理由や根拠がひらめきや思い込みなどに偏ることなく、意見に説得力をもたせるようにさせる。

イ 構成能力を高めるために

論述の組み立てを工夫する力を高めるためには、話の中心的部分と付加的な部分との関係がはっきり分かるようにさせる。また、表現効果を高めるためには、聞き手を意識した論理的な話の展開が求められることを理解させる必要がある。

そのため授業では、発表原稿の作成時に「題材」「理由と根拠」「予想される反対の意見」「結論」などの項目を示したプリントを配布し、それを利用して論述の組み立てを考えさせる。

ウ 伝達能力を高めるために

伝達能力を高めるためには、話す速度や

音量，言葉の調子や間のとり方，語句の使い方や文の整え方などを意識させる必要がある。

そのため授業では，ピクチャーゲームやラジオのCMを録音したものを活用し，話す速度や音量などについてどのように話すのが分かりやすいかということを考えさせる。また，相手や場面によってふさわしい話し方があることに気づかせる。

全体を通して

ア カセットテープを活用する

- ・2種類のラジオのCMを録音し，聞き比べるためのもの。
- ・発表内容を録音し，振り返り活動に利用するためのもの。

イ 学習プリントを活用する

- ・ピクチャーゲームで使用したり，その感

想を記入したりするためのもの。

- ・発表会の原稿を作るときヒントを得たり，原稿を記入したりするためのもの。

6 評価の視点

相手や場面を意識して効果的な話し方ができたか。(相手意識・場面意識・方法意識)

振り返り活動を行い，考え直したり考えを深めたりすることができたか。(評価意識)

自分の意見を明確にし，それを支える根拠や理由を収集，整理することができたか。

(取材能力)

題材を分かりやすく話すため，効果的な論述の組み立てができたか。(構成能力)

語句の選択や周辺言語の工夫などにより，適切に相手に伝えることができたか。(伝達能力)

7 学習指導計画(全5時間)

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
一	1	○「ピクチャーゲーム」(事実を正確に伝えることを目標に，「時計台」や「コーヒーカップ」等をイメージした図絵を言葉だけで相手に伝える。聞き手はそれを描き，元の図絵と比較し，話し方について考える。)を行い，言葉だけで事実を伝えることの難しさを感じ取る。また，物事を正確に伝えることについて考える。 ・気づきや感想を書く。	・ゲームの進め方が全員に理解できるようにする。 ・ルールを説明し，徹底する。 (言葉だけで説明する。ジェスチャーは禁止。元の絵や他人の絵はのぞかない。)
二	2	○2種類のラジオCM(ラジオショッピングと商品のCM)を聞き比べ，説明の仕方，話の構成の仕方などについてそれぞれの違いを明らかにし，効果的な説明の条件について考える。 ・「 を紹介しよう」のテーマを考える。	・自分の考えを発表する時には，必ず理由や根拠も言わせる。 ・テーマが決まりにくい生徒にはヒントを与える。 ・できるだけ論理的な展開が可能なテーマを考えさせる。
	3	○「 を紹介しよう」というテーマでスピーチする原稿を作る。 ・原稿ができあがったら，班内で発表練習を行い，評価し合う。 ・評価を受け原稿を修正し，発表会に備える。	・学習プリント(ヒント)を準備し，原稿を作らせる。 ・理由や根拠，つながりの言葉などに留意させ，効果的に組み立てさせる。 ・学習プリント(評価メモ)を準備する。
	4	○「発表会」を行う。 ・発表したり，他者の発表を聞いたりする。 ・評価カードに記入する。	・学習プリント(評価カード)を準備し，聞きながら必要なことをメモさせる。
	5	○「評価カード」に記された評価内容や発表時の「録音テープ」を参考にして発表原稿の修正を行い，原稿を完成する。 ・どの部分を改善すればよいかということを考えながら修正を行う。	・学習プリント，録音テープを準備する。